



和食、洋食、麺類まで、美味しいメニューが揃っています！

新百合ヶ丘総合病院の既存棟2階にある、カフェレストラン「NABE(ナベ)」。和食、洋食、麺類と、さまざまなメニューが揃っており、季節ごとに味わえるメニューも人気があります。シェフこだわりの料理が美味しいだけでなく、ガラス張りで眺めがよく、スタッフの接客が丁寧なので、患者さんやご家族だけでなく病院職員からも好評です。ケーキセットなどのスイーツや、ドリンクだけの利用も可能です。ぜひ一度、NABEでゆったりとしたひと時を過ごしてみたいはいかがでしょうか。



ステーキ重(味噌汁・小鉢・香の物付き) 鰻重(吸い物・香の物付き) シーフード焼きカレー 松花堂御膳(味噌汁・ご飯・水菓子付き) 季節のパスタ

場所／新百合ヶ丘総合病院 既存棟2階 営業時間／10:30～16:00
定休日／日曜・祝日 TEL／044-322-9630

2020年4月の 院内医学健康講座および院外市民医学講演会 開催中止について

日頃より本院主催の健康講座に足をお運びいただきまして、ありがとうございます。諸般の事情により、**4月の院内医学健康講座および院外市民医学講演会の開催を中止**することといたしました。たいへんご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

5月以降の講座につきましては、決まり次第お知らせいたします。

2020年2月の救急車受け入れ台数は527台でした。

しんゆりニュースター Vol.33 2020年4月1日 3,000部
発行：南東北グループ 医療法人社団 三成会 新百合ヶ丘総合病院(神奈川県川崎市麻生区古沢都古255) TEL 044-322-9991(代) <http://www.shinyuri-hospital.com>



しんゆり

題字/笹沼 仁一 院長

ニュースター 新百合ヶ丘総合病院 広報紙 vol.33
2020年4月1日発行

〈病院の理念：すべては患者さんのために〉



4/1 新棟 OPEN

新棟オープンにあたって
新百合ヶ丘総合病院 院長 笹沼 仁一

新百合ヶ丘総合病院は、2012年8月1日に開院し、2020年7月で丸8年になります。本院の目標は、救急・産科・小児科などの1. 地域医療に貢献することと同時に、本院が所属します南東北病院グループが得意とし、力を入れている2. 高度先端医療を実践することにより、地域住民の方々の日常生活における3. 最良の安心に繋がることとあります。

地域の方々のお陰で、2019年においては、377床病床稼働率約96%、外来1日平均約1,000名と現状の病院機能としてはフル稼働状況にあります。また、常勤医師も約145名と開設計画時の約1.5倍の医師が勤務しており、職員数も約1,000名を数えるまでになりました。これら現状の運営実績は、約10年前の計画時目標を達成、あるいは超える状況となっており、今後の病院運営を考えた場合にさらなる拡充が必要とされるちょうどよいタイミングで186床増床に伴う新棟がオープンいたします。

2018年6月から増床計画に伴う工事のため、駐車場に関して大変なご不便をおかけしてきましたが、ようやく2019年6月1日、284台の立体駐車場がオープンし、約1年間にわたる駐車場問題が解決され、いよいよ2020年4月から5月にかけて新棟の運用が開始されます。

新棟においては、1階フロアすべてを救急センターの施設拡充・救急病棟の新設などに利用し、現在年間約7,000台の救急車受け入れ実績のもと、さらなる応需率向上、受け入れ重症度・対応疾患の拡大など診療の向上を目指します。

その他、3階フロアに100床の回復期リハビリテーション病棟開設、4階フロアに川崎北部医療圏で初めての緩和ケア病棟21床の開設などを通して地域医療に貢献していく予定です。

産科・小児科医療に関しては、今まで以上に、この地域で生まれたあるいは生活しているお子さん方の疾病対応、健康管理に貢献できればと考え、2019年6月から毎日小児救急車の受け入れ対応を行っており、今後も地域連携のもと麻生区唯一の小児科入院施設としての役割を果たしていきます。また、新棟オープンに伴い外来機能が順次新規拡充される予定です。

新百合ヶ丘総合病院は、2018年4月に地域医療支援病院として認定されましたが、これからもその認定に恥じぬよう、また緊急災害時にも地域の医療を守れるよう努めていきたいと思っております。本院スタッフひとりひとりが思いやりの気持ちを持って連帯協力し、地域の方々が病気で困った時に信頼される病院となり、日常生活の安心に繋がることを目指していきます。

4月1日に新棟がオープン!

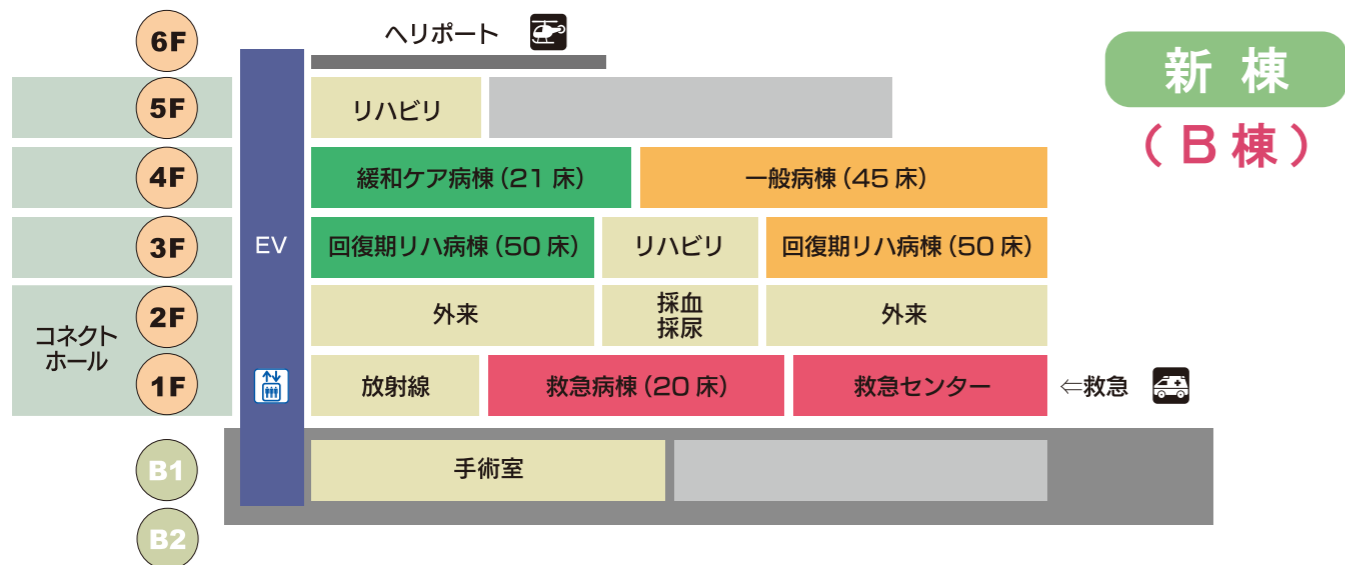
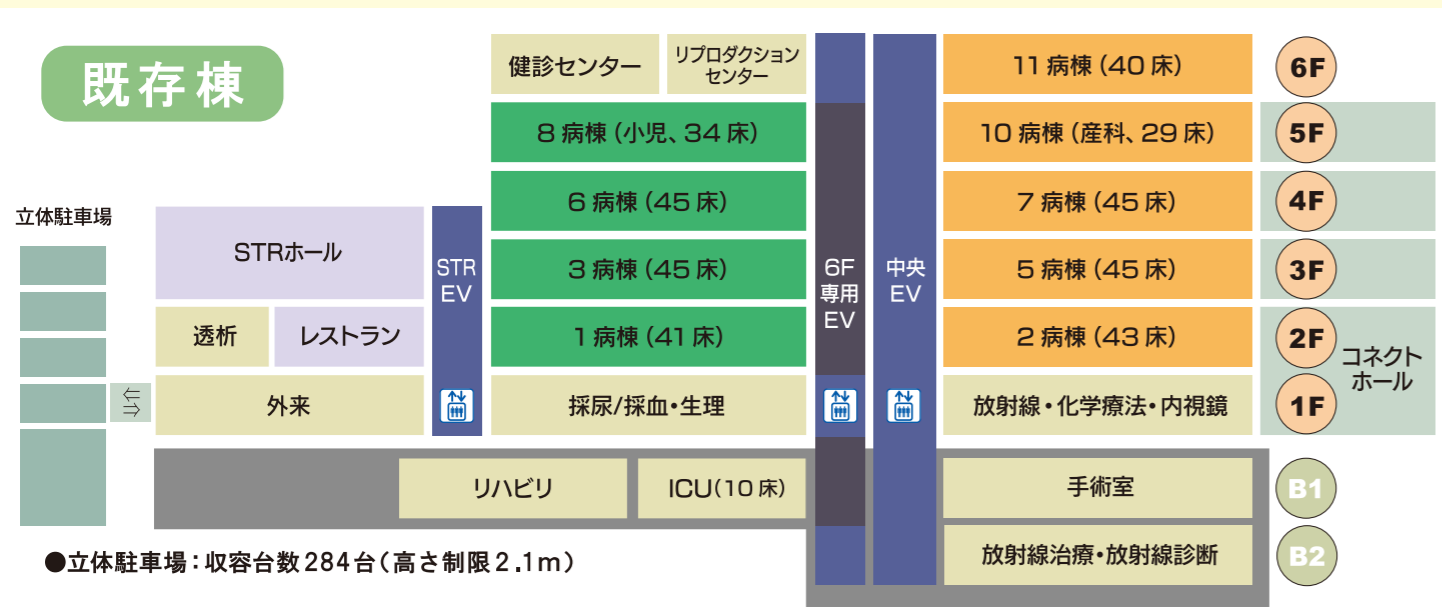
いよいよ、4月1日に新棟(B1F~3F)がオープンします。新棟の1階に救急センターを移設、3階には回復期リハビリテーション病棟が新たに設置され、地域医療に貢献できる高度急性期病院となります。

外来診療につきましては、4月1日より既存棟1階と、新棟(B棟)2階で行います。新棟の4F~5Fは、5月1日にオープン予定です。新棟の186床(一般病棟45床、回復期リハビリテーション病棟100床、緩和ケア病棟21床、救急専用病棟20床)が増床され、当院は563床となります。



- 施設概要
- 敷地面積 61,394.00 m²
 - 建築面積 11,350.96 m²
 - 総床面積 55,883.64 m²
 - 既存棟
 - 鉄筋コンクリート造 地下2階 地上6階
 - 病院棟延床面積 33,162.13 m²
 - 病床数 377床
 - 新棟 (B棟)
 - 鉄筋コンクリート造 地下1階 地上6階
 - 病院棟延床面積 15,399.01 m²
 - 病床数 186床

★フロアマップ

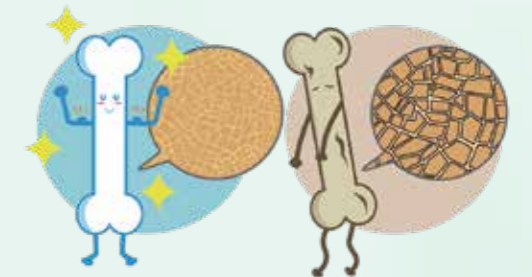


放射線科コラム

骨塩定量検査とは

診療放射線科 放射線技師 高倉 由希子

骨塩定量検査とは、骨に含まれるカルシウムなどのミネラル成分がどの程度あるか測定する検査で、骨粗しょう症や代謝性骨疾患の診断に役立ちます。若年成人の平均値と比べて自分の骨密度が何パーセントであるかで表されます。



骨塩定量検査にはDXA(デキサ)法、超音波法、MD(エムディ)法がよく知られます。DXA法はエネルギーの低い2種類のX線を使用し、全身のどの骨でも測定することができます。超音波法はかかとやすねの骨に超音波をあてて測定する方法で、X線を使用しないので妊娠中の方でも検査できます。MD法は手の骨とステップ状のアルミニウム板を同時に撮影し、その濃度を比較することで測定する方法で、簡易的なため診療所などでよく用いられます。

当院に設置しているGE社の「PRODIGY Advance」は、DXA法を用いた骨塩定量測定装置です。腰椎と大腿骨近位部(股関節)の2カ所を測定する方法を採用しており、これは骨粗しょう症診断で特に推奨される方法です。この装置は2カ所を同じ体位で一度に測定できるため効率よく検査ができます。被ばく線量は37μGyで、これは通常の胸部レントゲンの約6分の1に相当します。また骨塩定量測定その他、体組成測定もできることも特徴となっています。

判定基準は、若年成人に対して80%以上で正常、70~80%で骨量減少、70%未満で骨粗しょう症としています。

測定部位に体内金属があったり、数日以内に造影CTやバリウム検査を施行した場合は検査に支障をきたす場合がありますので、事前にお伝えください。



当院の骨塩定量測定装置
GE社「PRODIGY Advance」